

すいとぴあ江南の沿革

平成6年9月	自然を生かし、住みよい生活環境を創造する「水と緑のふるさとづくり」構想の北部拠点（約3ha）としてオープン ※市管理公社により運営（≡直営）
平成18年4月	指定管理者制度導入 ※民間事業者による運営
平成30年3月	江南市公共施設再配置計画を策定 公共施設の総量を減らさないと必要な施設が維持できない。 その中で「すいとぴあ江南」は、維持コスト高額、行政関与の必要性低い。⇒適正化方策・・・譲渡又は廃止
令和3年12月	市議会全員協議会ですいとぴあ江南の今後について協議 市が出した方針は、 ⇒計画の位置付けは「譲渡又は廃止」としながらも 当面の間は、施設を維持し、検討を継続する。
令和6～令和10年度	第5期指定管理期間

公共施設の更新費用

公共施設の
更新費用の見込

約700億円

—

用意できる
財源の見込

約400億円

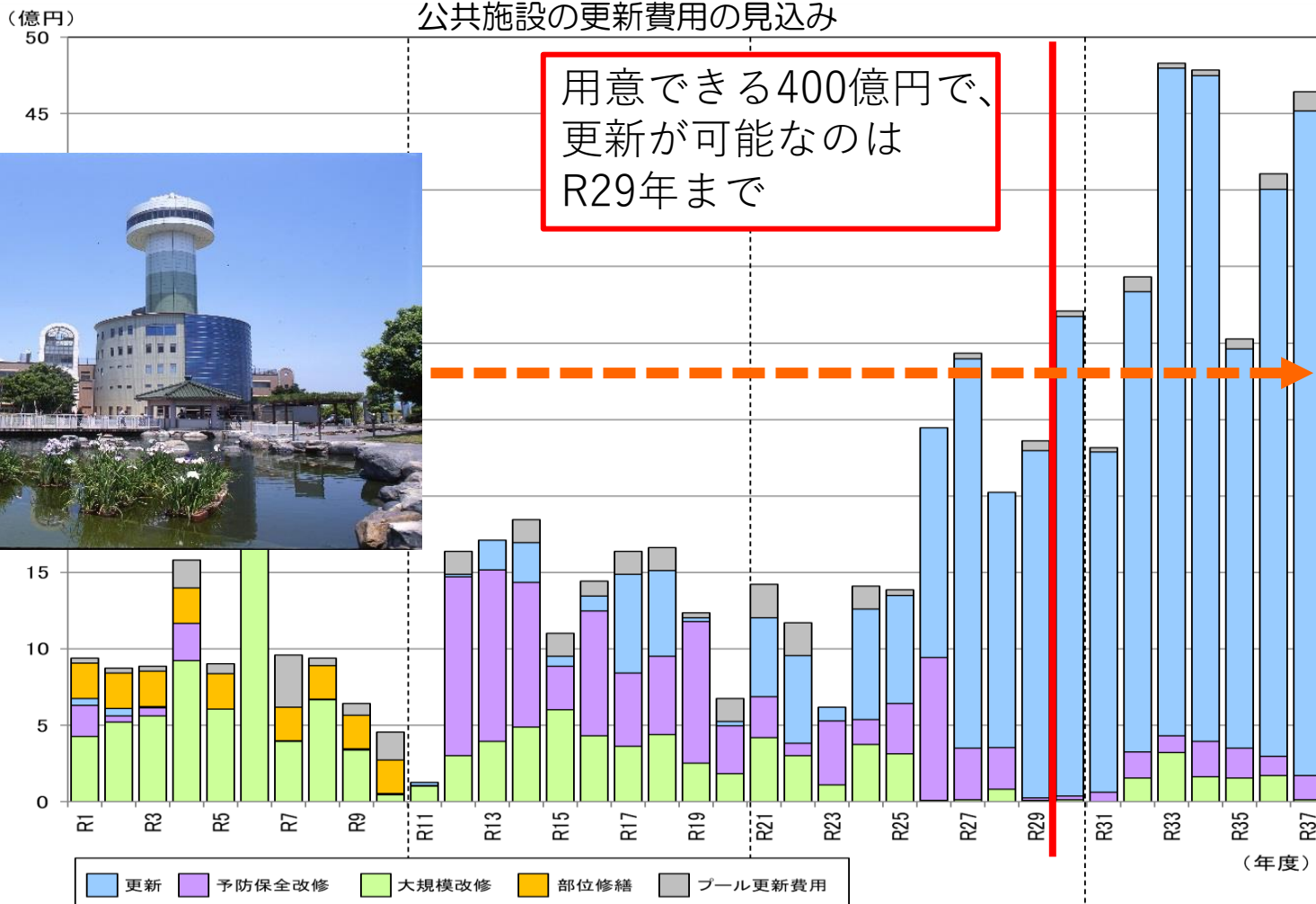
=

不足額

▲約300億円

※全ての公共施設を現在と同規模で維持・更新することはできない。

公共施設の更新費用の見込み



すいとぴあ江南の維持費用（江南市公共施設等総合管理計画期間における試算）

【高額な維持コスト】

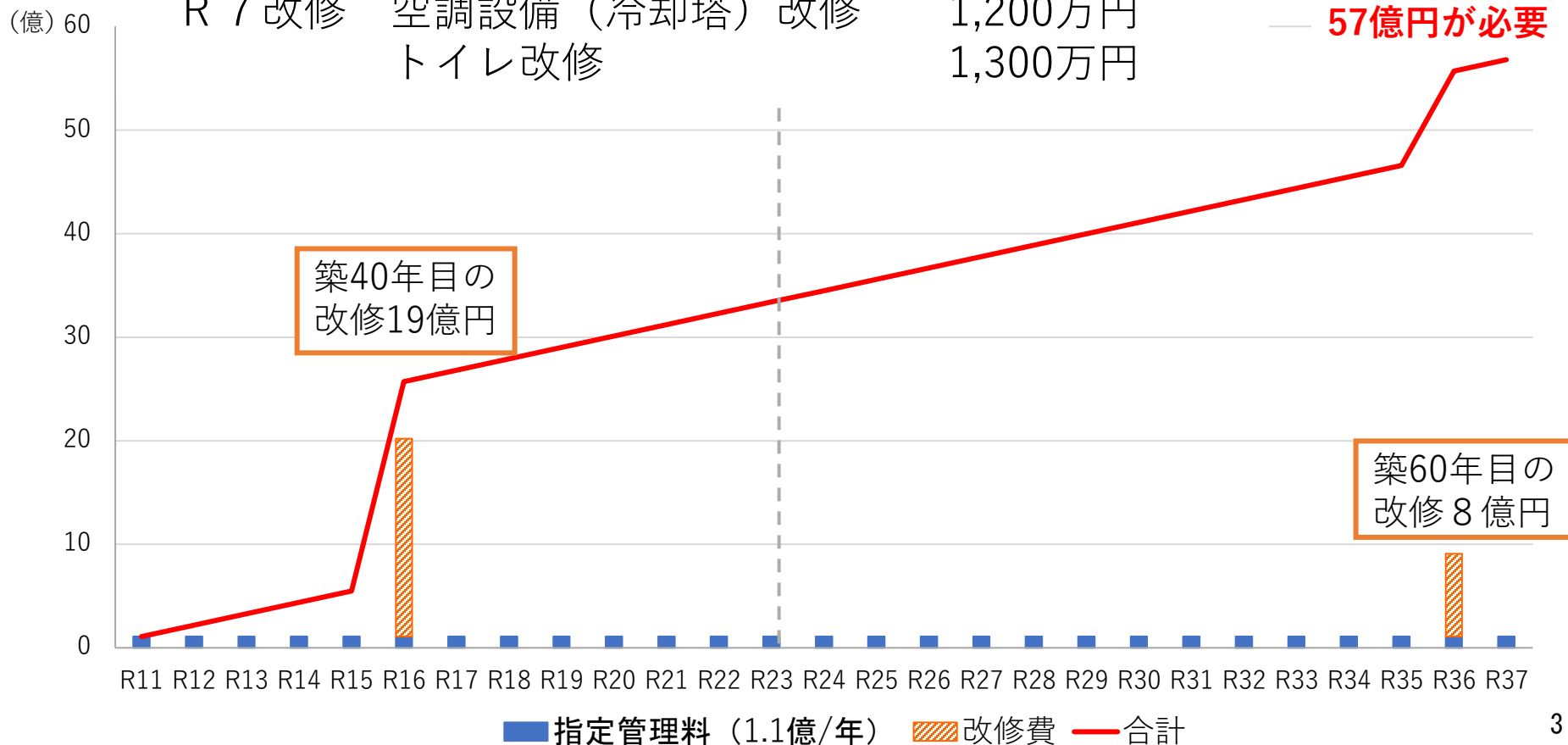
- 運営に必要な指定管理料は毎年1.1億円
- 建築年度：平成6年度（1994年度）築30年／法定耐用年数47年（令和23年度）
⇒老朽化が進んでいる。いずれは大規模な改修が必要。

整備費総額 約45億円

改修費総額 約3億円（屋上防水、外壁タイル改修など）

R 7 改修 空調設備（冷却塔）改修 1,200万円

トイレ改修 1,300万円

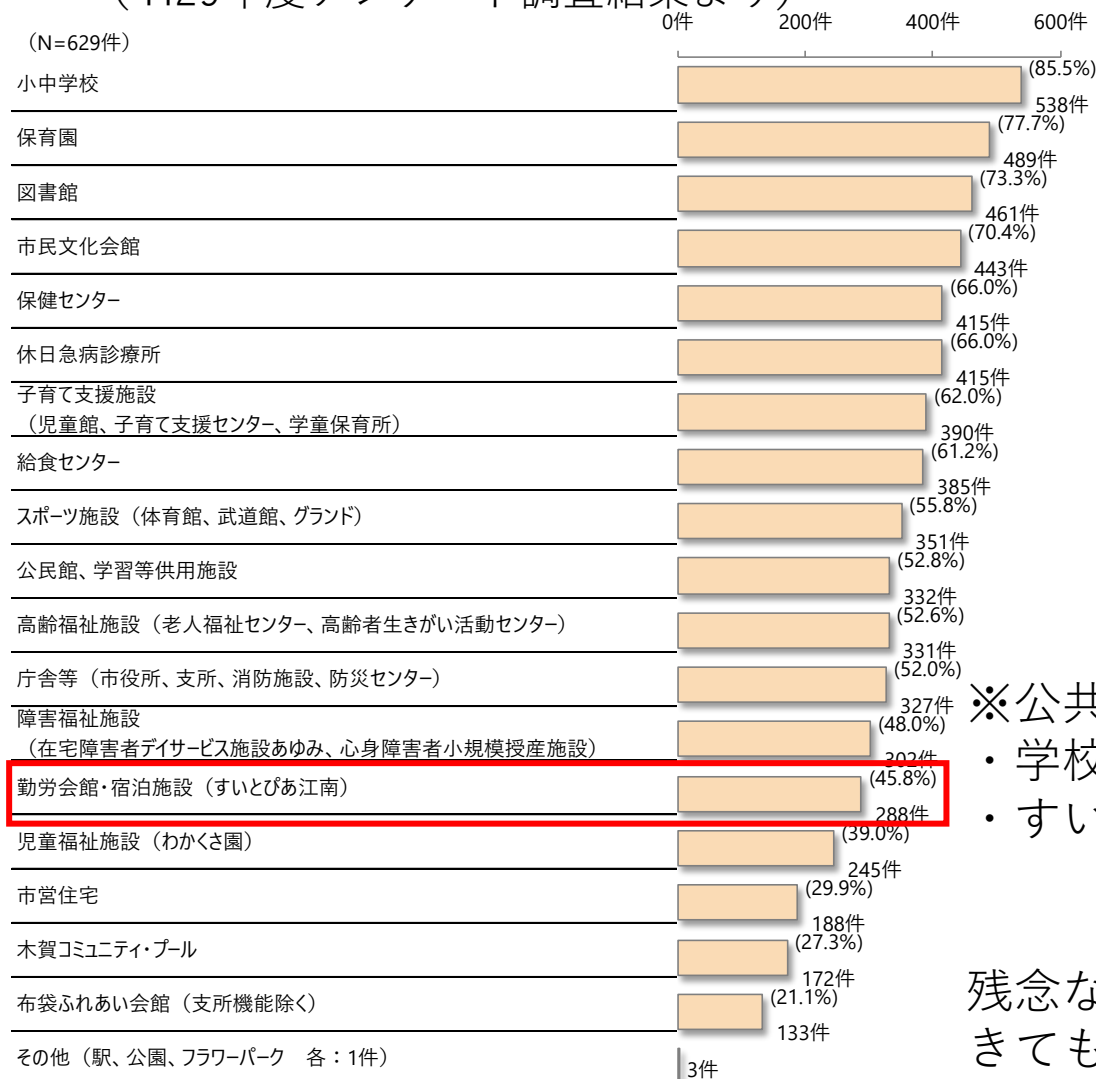


今後のあり方の検討

【市の考え①】（すいとぴあ江南の位置づけ）

◆将来にわたって市が優先的に残していくべき公共施設は？

（H29年度アンケート調査結果より）



※公共施設の更新、改修の優先順位

- ・学校、保育園：行政関与の必要性高い
- ・すいとぴあ江南：行政関与の必要性低い



残念ながら、すいとぴあ江南は耐用年数が
きても建替えることは難しい施設。

今後のあり方の検討

【市の考え②】

◆近隣施設や遊歩道・サイクリングロードと連携し、木曽川の自然を楽しむ水と緑のネットワークを形成し、多くの人に親しまれる場所にしたい。（江南市公共施設再配置計画）



新学校給食センター



国営木曽三川公園
フラワーパーク

蘇南公園

すいとぴあ江南



【今後整備予定の北部地域の施設】

①一般廃棄物最終処分場

埋立て終了後の活用。

②新学校給食センター

一般利用施設ではないが、一体的な景観に配慮。

③西側エリア(新ごみ処理施設)

江南市が活用するとしたエリア。